

学研都市記者クラブ、京都府政記者クラブ、奈良県政記者クラブ、
大阪経済記者クラブ、京都経済記者クラブ 14:00 同時配付



報道発表資料

令和2年6月24日
公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構

けいはんな学研都市「新たな都市創造会議」第4回総会の開催について ～令和2年6月1日（書面開催）～

「新たな都市創造会議（※1）」は、“世界の未来への貢献”と“知と文化の創造”をビジョンに掲げて策定した「新たな都市創造プラン（※2）」を推進していくため、2016年4月に設置した「けいはんな学研都市」のネットワーク型運営体制です。

今年の総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和2年6月1日付で書面にて開催しました。主な議事は、①最新の取組状況報告（「けいはんなインジケーターマップ2020（※3）」を含む）、②「新たな都市創造プラン」の後半戦に向けた戦略的シナリオづくりについてです。

後半戦とは、10年計画である「新たな都市創造プラン」が、2020年度に推進開始から5年目を迎え、翌年度から後半戦に入るとのこと。プラン策定当時には想定していなかった「大阪・関西万博」が、現プランの目標年2025年に開催決定。また近年、「異分野融合」「プロデューサー育成」「住民参加」「事業化支援」「グローバル連携」など、イノベーションハブ構築に向けた取組成果も具体化しつつあります。

これらの外部環境変化に対応し、「大阪・関西万博」開催を、「けいはんな学研都市」を国内外にアピールしていく絶好のチャンスと捉え、後半5年間および次の10年計画も見据えて「新たな都市創造プラン」のパワーアップを検討していくことになりました。詳細は、別紙を参照下さい。

以上

※1, 2, 3 = 会長：公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構理事長 柏原 康夫。国、地方公共団体、大学、研究機関、財界・民間企業・地元まちづくり団体など、全76機関で構成。詳しくは、以下のURLをご参照下さい。

<https://www.kri.or.jp/future/>

【参考】 <顧問・委員からの主なご意見要旨>

- ・今日では都市計画をはじめ各種の計画は社会経済の動向が見通しづらいことからその蓋然性が問われている。このため5年前に策定された「都市創造プラン」が中間点に至ったことにより、その計画内容を「大枠（マクロ）と詳細（ミクロ）」に分け、①学研都市の将来を規定する大枠については後半においてもこれを堅持する姿勢に立ち、一方、②具体的取組み等の詳細については現時点での視点や認識に基づき見直しや修正を行い、適宜適切な方策を設定することに留意すべき。
- ・「世界トップクラスのオープンイノベーション拠点」であるためにも、広報活動が重要。各機関がより効果的な広報活動を推進するための情報共有、連携、広報戦略立案機能が今回の再編によって縮小されないよう（むしろ強化されるよう）に。
- ・オープンイノベーションの推進は、学研都市全体にとって重要なテーマ。最近、開発したレーザーによるインフラ検査技術が、医療における外科手術時の固定具の固定状態確認作業や、製造業でのボルトの締め付け状態の点検装置開発などの技術相談を受けて、共同研究開発に発展。今回のけいはんなによるオープンイノベーション拠点づくりで機関横断的な枠組みとサポートする仕組みができることを期待。

■本件に関するお問合せ：

公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構 事業推進部 平塚、新井
Tel：0774-95-6121 / FAX0774-95-5104 / e-mail：soukai@kri.or.jp
〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台1丁目7 けいはんなプラザ ラボ棟3F

■「けいはんな学研都市」のさらなる成長に向けて

都市建設開始以来、30年が経過 >

現在4thステージとなる「**新たな都市創造プラン(2016～2025年度)**」

⇒ 2020年度末に中間点(10年計画の5年目末)を迎える。

取組方針

外部環境変化への対応

- > 計画目標年に「**2025 大阪・関西万博**」の開催が決定
- > 「**世界トップクラスの研究開発型オープンイノベーション拠点づくり**」への期待の高まり

前半の振り返りと中間チェック

～OUT PUT～ <自己評価>

= 事業主体(幹事会メンバー) ⇒ どれだけ頑張ったのか?

～OUT COME～ <他者評価>

= 進出企業等(立地機関・住民・来訪者) ⇒ どれだけ成果があったのか?

○注目すべき着眼点(例)

- (企業) 雇用促進、企業イメージ向上、企業間交流の活性化、立地環境の改善・向上、グローバル化の促進、売上・業績の向上
- (大学・公的機関) 国際会議・学会等の開催、共同研究・実証実験活発化
- (住民・来訪者) 学研都市との結び付き、科学技術への関心向上、都市モビリティの向上感

けいはんな学研都市の

- 1) 『強み』にスポットライトをあてて、**アピールポイントを整理・共有**
- 2) 同時に『弱み』を認識し、対策を検討

「**新たな都市創造プラン**」の**パワーアップ**

次期5thステージを**ロケットスタート**させるための準備

～**戦略的シナリオづくり**～

- 【スケジュール】
- 2020年5月(総会) : 取組方針決定
 - 夏頃 : OUT PUT指標・OUT COME指標の集約
 - 秋頃 : 「強み」「アピールポイント」の整理・共有
 - 冬頃 : パワーアッププランの素案作成 ⇒ 有識者ヒアリング
 - 2021年3月幹事会 : パワーアッププランの案作成
 - 2021年5月(総会) : パワーアッププランの完成・プレス発表

都市建設のステージから、**都市運営のステージ**への展開

「**世界トップクラスの研究開発型オープンイノベーション拠点**」づくりを目指す

政府要望活動を通じて支援継続を求めていくためにも

- ・都市の発展に応じた**公民の役割分担**や**都市運営のあり方**、さらに取組みを強化、加速するための**組織のあり方**を検討する。

1. イノベーション推進・新産業創出

○関西文化学術研究都市推進機構、(株)けいはんな、けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)など、新産業創出やベンチャー・中小企業支援などを推進してきたが、さらに取組みを強化、加速するために、各機関の**役割分担・機能を再検討**する必要がある。

2. 都市基盤整備

- クラスター総面積の約6割が整備され、近鉄けいはんな線、新名神道路(城陽～八幡京田辺間)開通など、周辺からのアクセスも改善されてきた。
- 今後、**未整備地区(高山第二、南田辺・狛田、木津東)の早期開発**とともに、さらなる利便性向上に向けた**交通インフラの整備**が求められる。(国道163号、精華西木津・高山地区連絡道路など)

1. 推進機構の役割

○学研都市建設に関わる行政(3府県8市町)と立地機関・経済界の多様なステークホルダーの「**総合調整役**」から、イノベーション創出支援を通じて「**世界トップクラスの研究開発型オープンイノベーション拠点の推進役**」へ役割を見直す。

2. 公民の役割分担再構築

- 公民の役割分担を再確認し、推進機構の役割・活動に反映させる。
- ・住民サービス・立地企業支援 ⇒ 公
- ・都市建設(インフラ整備) ⇒ 公・民
- ・イノベーション環境整備・推進 ⇒ 民(ただし新たな支援策・環境整備は公)

